

多職種参加型事例検討会開催のお知らせ

少子高齢化と人口減少に対応する地域包括ケアシステム構築に向け、医療と介護の連携による在宅療養支援が強く求められています。医療と介護の関係者が顔の見える関係の中で事例検討を行い、在宅療養の可能性を広げ、在宅療養者の生活の質の向上を目指します。

日 時

平成 29 年 3 月 9 日 (木) 18 時 45 分から 20 時 15 分まで

場 所

箕輪町文化センターホール

内 容

医療依存度の高い在宅療養者の事例 2 つをそれぞれ希望するグループに分かれ、多職種により事例検討を行う。

参集範囲

箕輪町の要介護者を対象とする介護保険事業所スタッフ

箕輪町医師会・歯科医師会・薬剤師会 会員の所属する医療機関スタッフ

伊那中央病院・辰野病院スタッフ

地域包括ケアシステム構築のために、介護保険地域支援事業に医療介護連携の推進が位置付けられ、平成 30 年までに全市区町村が取り組むべきとされています。医療・介護関係者の顔の見える関係づくりと、関係者一人ひとりが在宅療養者の在宅療養と生活の質の向上を目指すことを目的として開催します。

添付資料 有 無



～ 箕輪町はセーフコミュニティを推進しています。～

福祉課高齢者福祉係

(課長) 安積真人 (担当) 鈴木道代

電 話 : 0 2 6 5 - 7 9 - 3 1 1 1 (内線) 1 5 6

F A X : 0 2 6 5 - 7 9 - 0 2 3 0

E - mail : fukushi@town.minowa.nagano.jp

第4回 多職種参加型 事例検討会

誰もが住み慣れた地域で、その人らしく暮らすことを支援するために、医療や介護がそれぞれの敷居を超えて、連携することが求められています！

医療も介護も分け隔てなく、専門職としてどのような支援ができるのか、それぞれの役割を確認しましょう！

日時：平成 29 年 3 月 9 日(木) 18:45 から 20:15

◆場所：箕輪町文化センター ホール ◆参加費：無料

◆申し込み：裏面申し込み書を下記まで 2月 24 日までに FAX してください。

こんなケースの悩みは
ありませんか？

具体的な事例を取扱い、
自立支援と在宅療養の可能
性を検討します！

事例1

嚥下障がい・身体障がいにより意欲が低下し、
閉じこもりがちな 63 歳男性への支援

63 歳男性。若くして脳梗塞を発症。右半身麻痺と嚥下障がい残り、胃瘻を増設。本人は病気・障がいを受け入れることが出来ずに意欲が低下し、自宅に引きこもりがちとなっている。

家族はなんとか意欲を取り戻し、前向きに生活してほしいと願い、せめて口から食べられるようになれば元気が出るのではないかとリハビリテーションを希望している。

在宅療養の中で、関係者はどのような支援が出来るのでしょうか。

事例2

認知症・糖尿病をもつ独居高齢者の
在宅療養支援

70 歳の独居男性。糖尿病のため在宅療養していましたが、食事・服薬等療養コントロールが不良で、入院。入院中に軽度認知症であることが判明。本人の入院拒否により退院して、在宅療養することとなりました。

支援者が少ない中で、一人暮らしの認知症高齢者の糖尿病療養を地域ではどのように支えていけば良いのでしょうか。

*事例詳細は別紙をご覧ください



連絡・お問い合わせ

箕輪町地域包括支援センター 担当 鈴木道代

電話：70-6622 Fax：70-6699